

次の文章を読み、あとの各問に答えよ。

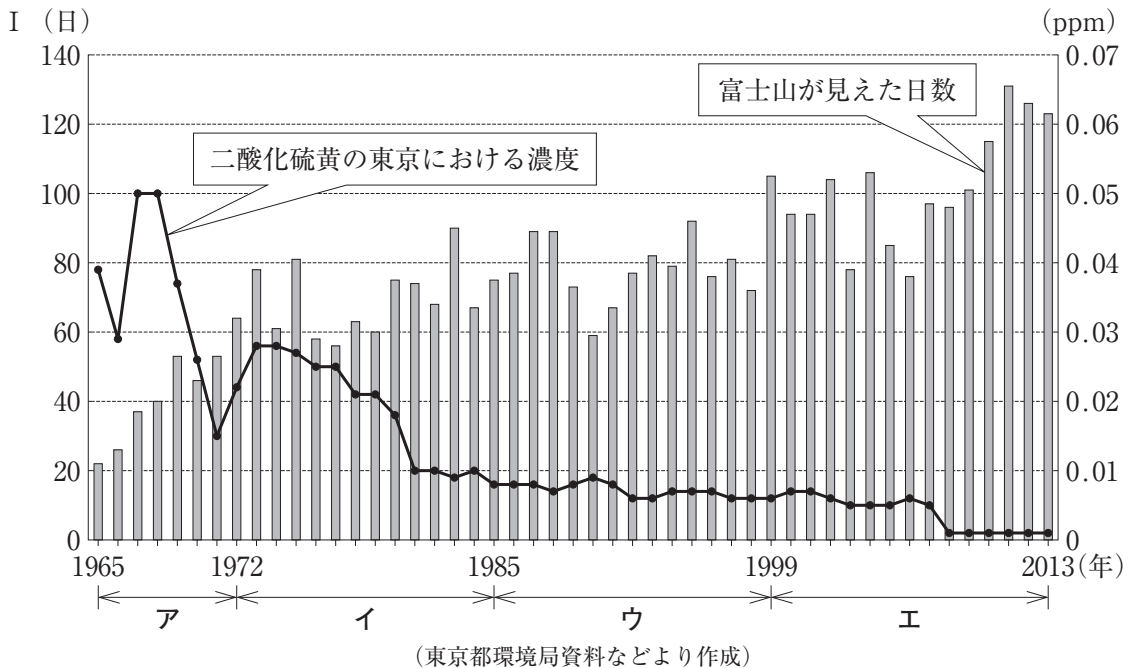
私たちは、身の回りの土地やものについて面積や重量などを道具を用いて計測し、その結果を暮らしに役立ててきた。

古代から、各時代の権力者は、財政基盤を固めるため、土地の面積を基に税を徴収するなどの政策を行ってきた。時代が進み、地域により異なっていた長さや面積などの基準が統一された。

江戸時代に入ると、天文学や数学なども発展を遂げ、明治時代以降、我が国の科学技術の研究水準も向上し、独自の計測技術も開発されるようになった。

第二次世界大戦後になると、従来は計測することができなかった距離や大きさなどが、新たに開発された機器を通して計測することができるようになり、環境問題などの解決のために生かされてきた。

〔問〕 環境問題などの解決のために生かされてきた。とあるが、次のⅠのグラフは、1965年から2013年までの、東京のある地点から富士山が見えた日数と、大気汚染の一因となる二酸化硫黄の東京における濃度の変化を示したものである。Ⅱの文章は、Ⅰのグラフのア～エのいずれかの時期における国際情勢と、我が国や東京の環境対策などについてまとめたものである。Ⅱの文章で述べている時期に当てはまるのは、Ⅰのグラフのア～エの時期のうちではどれか。



Ⅱ 東ヨーロッパ諸国で民主化運動が高まり、東西ドイツが統一されるなど国際協調の動きが強まる中で、国際連合を中心に地球温暖化防止策が協議され、温室効果ガスの排出量の削減について数値目標を設定した京都議定書が採択された。長野県では、施設建設において極力既存の施設を活用し、自然環境の改変が必要な場合は大会後復元を図った、オリンピック・パラリンピック冬季競技大会が開催され、東京都においては、「地球環境保全東京アクションプラン」を策定し、大気汚染の状況は改善された。この時期には、Ⅰのグラフの観測地点から平均して週1回は富士山を見ることができた。